

「人権のひろば」
に対するご意見、
ご感想は戦略企
画室広報広聴グ
ループまでお寄
せください。

差別や偏見に気付く力を

育む授業づくり

「部落差別の解消の推進に関する法律」には、部落差別を解消するため、必要な教育および啓発を行うよう明記されています。

本市の小・中学校では、昨年度、全校から教員が参加し、人権教育の授業づくりが行われました。テーマは「部落差別問題」です。

なぜ、部落差別を学ぶ必要があるのでしょうか。

差別や偏見を解消するためには正しい理解を持つことが必要だからです。

今回の取り組みでは、小・中学校の教員がテーマ別にグループに分かれ、一緒に授業内容を考えました。そして、授業後に子どもたちに差別や偏見に気付く力がついたのか、授業内容は分かりやすかったかをグループで振り返りました。

この取り組みでは、決して部落差別そのものを教えるだけではなく、部落差別をしない・させない・許さない子どもを育てるために、ものごとをうわさや決めつけで判断せず、差別や偏見に気付く力に焦点を当てた授業を行うことができましたと感じています。

参加した教員は、「子どもたちにどんな力をつけたいか」をはっきりさせておくことが、授業を行う上で大切なことであり、さらに、深い学びにするためには、まず指導する教員が深く学んでいかなければならないという気付きがあったと感想を話していました。

「差別・偏見」をなくすために、子どもたちだけではなく私たち大人も、今一度、さまざまな人権について学び、考えてみませんか。

《授業のねらいと子どもの感想》(一部)

	授業のねらい	子どもの感想
偏見	決めつけや偏見に気付き、自分で判断・行動できる力を育てる。 ①絵本『あの子』を読む ②決めつけや偏見が差別につながるというしくみを主人公の言葉から考える ③自分ならどんな行動ができるか考える	「うわさなら流していいと思うけど、悪いうわさは流さない方がいいなと思いました」 「うわさというのは、人を傷つけてしまうものだと分かりました」
文化・産業	さまざまな仕事(職業)によって、私たちの生活が成り立っていることに気付く。 ①絵本『きみの家にも牛がいる』を読む ②牛から何が作られているのかを知る ③牛に関わる仕事を出し合い、仕事と生活のつながりについて考える ④自分の考えをまとめ、話し合う	「牛からできる身の回りの物やそれに関わる仕事について知った」 「解体業や農家の人にありがとうという気持ちで生活していきたいです」
進路・生き方	人の本質を見つめ、これからの自分の生き方を考える。 ①絵本『たいせつなきみ』を読む ②さまざまな個性を持った人物との出会いにより、変化する主人公の心情を感じ取る ③絵本からどのようなことを学んだか発表し、話し合う	「他人の評価で決めるのではなく、自分が頑張ったかで決まると分かりました」 「みんなを大切にすることはこんなに大事なんだと思いました」

(『平成30年度 地域教材シリーズ26』より一部抜粋)

生活安全

だより

シリーズ

197

若者を狙う マルチ商法にご注意!!

相談概要

大学の先輩に簡単に稼げると勧められてサイドビジネスを契約し、登録料10万円を手渡した。1人誘うと2万円もらえるが誰も誘えず、SNSのやり取りだけで書面もないため、解約方法も不明。

アドバイス

情報商材や仮想通貨の投資などの副業で簡単に稼げて、誰かを誘うと報酬も手に入るというマルチ商法のトラブルが、大学生など若者の間で広がっています。

初期費用は高額で、すぐに元が取れると言われて消費者金融から借り入れさせられるケースもあります。

マルチ商法は契約から20日以内ならクーリング・オフができますが、SNS上のやり取りのみで、事業者の情報がなく契約書もない場合は、交渉もできません。直接誘った人に返金の申し出をすることになります。対応困難な場合がほとんどです。

簡単に稼げるという言葉に信じて、知人からの誘いでも慎重な判断が必要です。困った時は早めに消費生活センターにご相談ください。

消費生活センター ☎ 070・0492 (水・土・日曜日、祝日を除く)

